

地域で進めるACP（アドバンス・ケア・プランニング）
日本看護協会の取組みのご紹介

公益社団法人日本看護協会
医療政策部在宅看護課

堀川尚子



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

ACPにまつわる倫理的課題

- 医療技術の進歩や人々の権利意識の高まり、価値観の多様化等により、看護職は日々の業務において多くの倫理的課題に直面するようになりました。
- 看護職がACPを支援する過程においても、様々な倫理的課題・ジレンマに直面することがあります。

■ ACPにまつわる倫理的課題（例）

- ・患者と家族の意向が異なる
 - ・主治医や他の専門職と看護職の意見が異なる
 - ・患者が病状の説明を受けたくない
 - ・患者、家族が非現実的な治療を希望している
 - ・認知症のある高齢者、家族がいない高齢者の意思決定支援
- 多職種チームでディスカッションし、倫理的課題への対応を検討しながら、看護職が専門職としてより質の高い看護を提供するためには、深い知識と適確な看護技術とともに、高い倫理性が不可欠です。

日本看護協会では、ACPを含む看護倫理についての情報や学習資料をホームページで展開しています。以下、概要をご紹介します。

看護職の倫理綱領

- 日本看護協会は、1988年に我が国初の看護職の行動指針として「看護師の倫理規定」を作成しました。その後、2003年には、それまでの時代の変化に応じた内容に改訂し、「看護者の倫理綱領」として公表しました。
- 公表から17年が経過し、看護を取り巻く環境や社会情勢が大きく変化していることから見直しを行い、2021年3月に「看護職の倫理綱領」として公表するに至りました。
- 看護職が適切な倫理的判断を行うよりどころとして、本綱領をそれぞれの現場でご活用ください。

■ 日本看護協会ホームページ「看護職の倫理綱領」

https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code_of_ethics.pdf

<主な改訂内容>

- ・名称の変更：「看護者」⇒「看護職」
- ・自然災害における看護職の行動指針について本文に追加
- ・あらゆる場で活躍する看護職の行動指針となるような表現に変更
- ・専門職として対象となる人々と適切な関係を構築することを追加
- ・十分な話し合いを通じた合意形成である意思決定の視点へと変更 等

看護職の倫理綱領

1. 看護職は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する。
2. 看護職は、対象となる人々に平等に看護を提供する。
3. 看護職は、対象となる人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する。
4. 看護職は、人々の権利を尊重し、人々が自らの意向や価値観にそった選択ができるよう支援する。
5. 看護職は、対象となる人々の秘密を保持し、取得した個人情報には適正に取り扱う
6. 看護職は、対象となる人々に不利益や危害が生じているときは、人々を保護し安全を確保する。
7. 看護職は、自己の責任と能力を的確に把握し、実施した看護について個人としての責任をもつ。
8. 看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める。
9. 看護職は、多職種で協働し、よりよい保健・医療・福祉を実現する。
10. 看護職は、より質の高い看護を行うために、自らの職務に関する行動基準を設定し、それに基づき行動する。
11. 看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する。
12. 看護職は、より質の高い看護を行うため、看護職自身のウェルビーイングの向上に努める。
13. 看護職は、常に品位を保持し、看護職に対する社会の人々の信頼を高めるよう努める。
14. 看護職は、人々の生命と健康をまもるため、さまざまな問題について、社会正義の考え方をもちて社会と責任を共有する。
15. 看護職は、専門職組織に所属し、看護の質を高めるための活動に参画し、よりよい社会づくりに貢献する。
16. 看護職は、様々な災害支援の担い手と協働し、災害によって影響を受けたすべての人々の生命、健康、生活をまもることに最善を尽くす。

看護職のための自己学習テキスト

- 日本看護協会は、2008年2月に「看護倫理—看護職のための自己学習テキスト」を作成し、ホームページ上で公開しています。
2017年4月の改訂を経て、今回、「看護職の倫理綱領」の公表に伴い、本テキストを改訂しました。
- 本コンテンツは、看護職の皆さまが現場で悩んだり疑問を感じたりした際に、前向きな対応ができるよう、そのヒントとなる情報を幅広く提供するものです。
事例分析を通じた看護のあり方のほか、社会的関心の高い倫理的話題およびそれに対する看護職の基本的考え方などを掲載しています。
- 日々の看護に悩んだとき、後輩や部下からの相談に応じるとき、倫理に関する勉強会に参加するとき、報道を通して高度医療等に伴う倫理的問題に興味をお持ちになったときなどに、そのヒントや参考資料としてご活用ください。

■ 日本看護協会ホームページ「看護職のための自己学習テキスト」

<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/index.html>

看護職のための自己学習テキスト

【基礎知識編】

- 倫理とはなにか
- 臨床倫理のアプローチ
- 専門職の倫理
- 看護職が直面する倫理的問題とその考え方
- 個人に関する情報と倫理
- 人生の最終段階における医療と倫理
- 多職種連携と倫理
- 患者・家族との信頼関係と倫理
- 意思決定支援と倫理（1）代理意思決定の支援
- 意思決定支援と倫理（2）高齢者の意思決定支援
- 意思決定支援と倫理（3）子どもの意思決定支援
- インフォームドコンセントと倫理
- 妊娠・出産をめぐる倫理
- 臓器移植医療と倫理

【事例検討編】

- 入院直後に急死した患者の遺族への対応
- 家で死にたいという意向を持つ一人暮らしの末期がん高齢者
- 延命措置拒否のリビングウィルを持った救急患者の治療方針の決定
- 代理意思決定する妻の葛藤
- 高齢者の血液透析の選択
- 食事をめぐる介護施設での他職種との意見の違い
- 化学療法を受ける患者の治療計画の変更
- 統合失調症を有する患者のがんの精査と治療の選択
- B型肝炎の患者のドナー候補者となった妻の決断
- 子どもへの病状や治療の説明をめぐる家族と医療職との意見の違い
- 出生前診断の結果をめぐる家族の葛藤

■ 日本看護協会ホームページ「看護職のための自己学習テキスト」

<https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/index.html>